

エコアクション21 環境経営レポート

対象期間:2023年度4月～2024年度3月



大牟田工場近くのひまわり



本社近くの麒麟ビール工場のコスモス

2024年 6月 25日発行
株式会社高野環境
EMS責任者 高野 佑希

目 次

環境経営方針	・・・	3
1. 組織の概要	・・・	4
2. 許可の内容	・・・	5
3. 保有車両	・・・	6
4. 処理工程図	・・・	7
5. 産業廃棄物 収集運搬実績	・・・	8
6. 事業の活動規模	・・・	8
7. 環境経営目標	・・・	9
8. 環境経営計画	・・・	9
9. 環境関連法規 一覧	・・・	10



環 境 経 営 方 針

◎経営理念

近年、環境・資源問題やSDGs (Sustainable Development Goals”持続可能な開発目標”)に対する関心が高まっている。今後、このような問題に積極的に取り組み、リサイクル法の制定、廃棄物処理法を改正するなど社会全体として環境・資源問題に取り組む仕組みが整いつつあります。

高野環境では、廃棄物事業を通して、限りある資源を大切にするために、循環型リサイクルシステムを構築し、SDGsの目標及び地球環境に貢献していきます。

◎環境方針

1. 当社は、次の事項に対して重点的に取り組みます。
 - (1) 使用エネルギーの節減により、電気使用量及びCO₂排出量を削減します。
 - (2) 資源リサイクルの推進を行い、廃棄物排出量を削減します。
 - (3) 限りある水資源の有効利用に努めます。
 - (4) エコドライブの推進に努め、使用エネルギーの削減に寄与します。
2. 取り扱う廃棄物のリサイクルを推進し、地球環境に寄与します。
3. 法的要求事項及び組織が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 全社員に環境方針を周知し、その達成に努めます。
5. 環境経営を定期的に評価し、環境目的及び目標の設定及び見直しの継続的改善を図っていきます。
6. 地域社会の一員として、社会貢献活動への取組みを推進します。
7. 全社員に環境方針の周知を図り、環境経営の実効性の向上に努めます。

制定日 2020年10月 1日

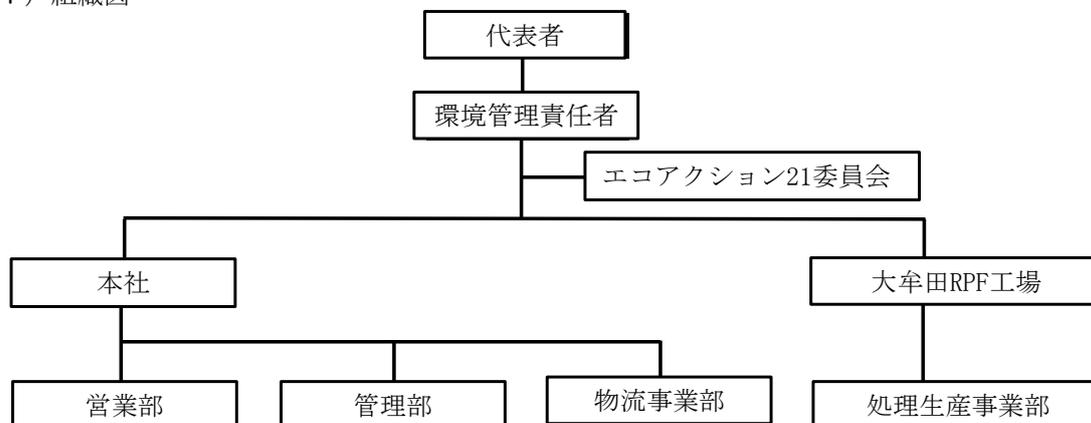
株式会社 高野環境

代表取締役 高野 清隆

2. 組織の概要

- (1) 事業所名 株式会社高野環境
代表者名 代表取締役 高野 清隆
- (2) 所在地 本社 〒830-1226 福岡県三井郡大刀洗町大字山隈350番地の1
TEL:0942-77-1137 FAX:0942-77-3791
大牟田RPF工場 〒836-0011 福岡県大牟田市健老町459番1
TEL:0944-59-8277 FAX:0944-59-8278
- (3) 設立年月日 1983年4月1日
- (4) 資本金 350万円
- (5) 事業内容 ○産業廃棄物 収集運搬 (九州7県+山口県)
○産業廃棄物 処理及びRPF (固形燃料) 製造及び販売
○一般廃棄物 (し尿・浄化槽) 収集運搬
○浄化槽 保守点検
○しゅんせつ工事
○工場プラント清掃、高圧洗浄
- (6) 環境管理責任者 常務取締役 高野 佑希
TEL : 0942-77-1137 FAX : 0942-77-3791
E-mail : tk-rpf01@magma.jp

(7) 組織図



- (8) 認証・登録の対象範囲 (全組織・全活動)
- 本社：福岡県三井郡大刀洗町大字山隈350番地の1
 - 大牟田RPF工場：福岡県大牟田市健老町459番1

3. 許可の内容

①産業廃棄物 収集・運搬及び処分業

都道府県・政令市	許可番号	許可年月日及び有効期限	許可品目	
産業廃棄物 収集運搬業				
福岡県	04000010280	令和5年8月23日 ～ 令和10年8月22日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん	
佐賀県	04103010280	令和4年5月6日 ～ 令和9年5月5日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん、コンクリートくず、陶磁器くず	
長崎県	04200010280	令和4年12月11日～ 令和9年12月11日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん、コンクリートくず、陶磁器くず	
大分県	04407010280	令和3年11月14日 ～ 令和8年11月13日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん	
熊本県	04305010280	令和3年9月28日 ～ 令和8年9月27日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん、コンクリートくず、陶磁器くず	
宮崎県	04500010280	令和3年12月3日 ～ 令和8年12月2日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん、コンクリートくず、陶磁器くず	
鹿児島県	04603010280	令和4年3月12日 ～ 令和9年3月11日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん、コンクリートくず、陶磁器くず	
山口県	03500010280	令和4年4月9日 ～ 令和9年4月8日	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、槽植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん、コンクリートくず、陶磁器くず	
産業廃棄物 処分業				
福岡県	04020010280	令和3年12月5日 ～ 令和8年12月4日	破碎	廃プラスチック類、金属くず、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、
			圧縮固化	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、燃え殻、汚泥、動植物性残さ

②一般廃棄物 収集・運搬業

都道府県・政令市	許可番号	許可年月日及び有効期限	取扱廃棄物名
小都市	第6-3号	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	し尿
大刀洗町	第1661号	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	し尿
大刀洗町	第1662号	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	浄化槽

③一般建設業

都道府県・政令市	許可番号	許可年月日及び有効期限	建設業の種類
福岡県	(般一28) 第95812号	令和4年2月27日～ 令和9年2月26日	しゅんせつ工事

4. 保有車両

(2024年度6月現在)

No	車両の名称	最大積載量	車両サイズ 全長×幅×高さ	低公害車の導入状況	
				排ガスレベル	燃費低減レベル
1	大型吸引車	9600	925×248×310	—	—
2	大型強力吸引車	8820	950×249×334	—	—
3	大型強力吸引車	7400	995×249×334	H28年排出ガス規制適合車	H27年度燃費基準達成車
4	小型強力吸引車	2520	690×217×260	H20年排出ガス規制適合車	—
5	大型ウィング車	14200	1198×249×375	H28年排出ガス規制適合車	H27年度燃費基準5%達成車
6	4tアームロール車	3800	607×221×243	H12年排ガス規制 PM75%低減	低PM認定車
7	6tアームロール車	6900	626×219×250	H12年排ガス規制 PM75%低減	低PM認定車
8	7tアームロール車	7800	627×231×247	H28年排出ガス規制適合車	H27年度燃費基準達成車
9	10tアームロール車	12800	1119×249×290	H12年排ガス規制 PM75%低減	低PM認定車
10	10tアームロール車	12400	1116×249×334	—	H27年度燃費基準10%達成車
11	塵芥車	1450	745×218×278	H12年排ガス規制 PM75%低減	低PM認定車
12	塵芥車	3400	719×220×277	H22年排ガス規制	H27年度燃費基準達成車
13	塵芥車	3700	742×228×276	H28年排出ガス規制適合車	H27年度燃費基準達成車
14	深ボディーダンプ車	9600	907×249×318	H21年排ガス規制 10%低減	H27年度燃費基準達成車
15	深ボディーダンプ車	10600	941×249×319	H17年排ガス規制 NOx・PM10%低減	—
16	3t吸引車	2700	515×169×201	—	H27年度燃費基準10%達成車
17	3t吸引車	3000	516×188×221	—	—
18	4t吸引車	3700	552×204×231	H22年排ガス規制	H27年度燃費基準達成車
19	7tユニック車	6100	806×228×328	—	—
20	高圧洗浄車	2520	587×219×251	—	H27年度燃費基準10%達成車
21	バン	350	424×169×152	H30年排ガス規制 75%低減	H27年度燃費基準25%達成車
22	ステーションワゴン		339×147×187	H17年排ガス規制	—
23	ステーションワゴン		436×169×147	H17年排ガス規制 75%低減	H32年度燃費基準50%向上達成車

①運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

運搬施設の排ガスレベル	台数	割合 (%)
H12年排ガス規制 PM75%低減	4	17.4%
H12年排ガス規制 PM85%低減	0	0.0%
H17年排ガス規制	1	4.3%
H17年排ガス規制 NOx・PM10%低減	1	4.3%
H17年排ガス規制 75%低減	1	4.3%
H20年排出ガス規制適合車	1	4.3%
H21年排ガス規制 10%低減	1	4.3%
H22年排ガス規制	2	8.7%
H28年排出ガス規制適合車	4	17.4%
H30年排ガス規制 75%低減	1	4.3%
—	7	30.4%
全保有台数	23	100.0%

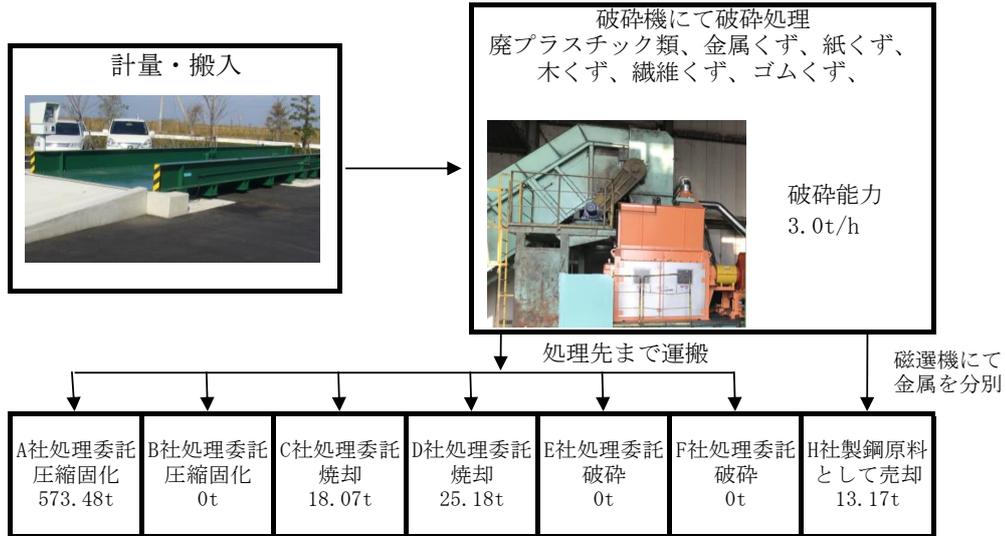
②運搬車に係る低燃費車の導入状況

運搬施設の燃費低減レベル	台数	割合 (%)
低PM認定車	4	17.4%
H27年度燃費基準達成車	6	26.1%
H27年度燃費基準5%達成車	1	4.3%
H27年度燃費基準10%達成車	3	13.0%
H27年度燃費基準25%達成車	1	4.3%
H32年度燃費基準50%向上達成車	1	4.3%
—	7	30.4%
全保有台数	23	100.0%



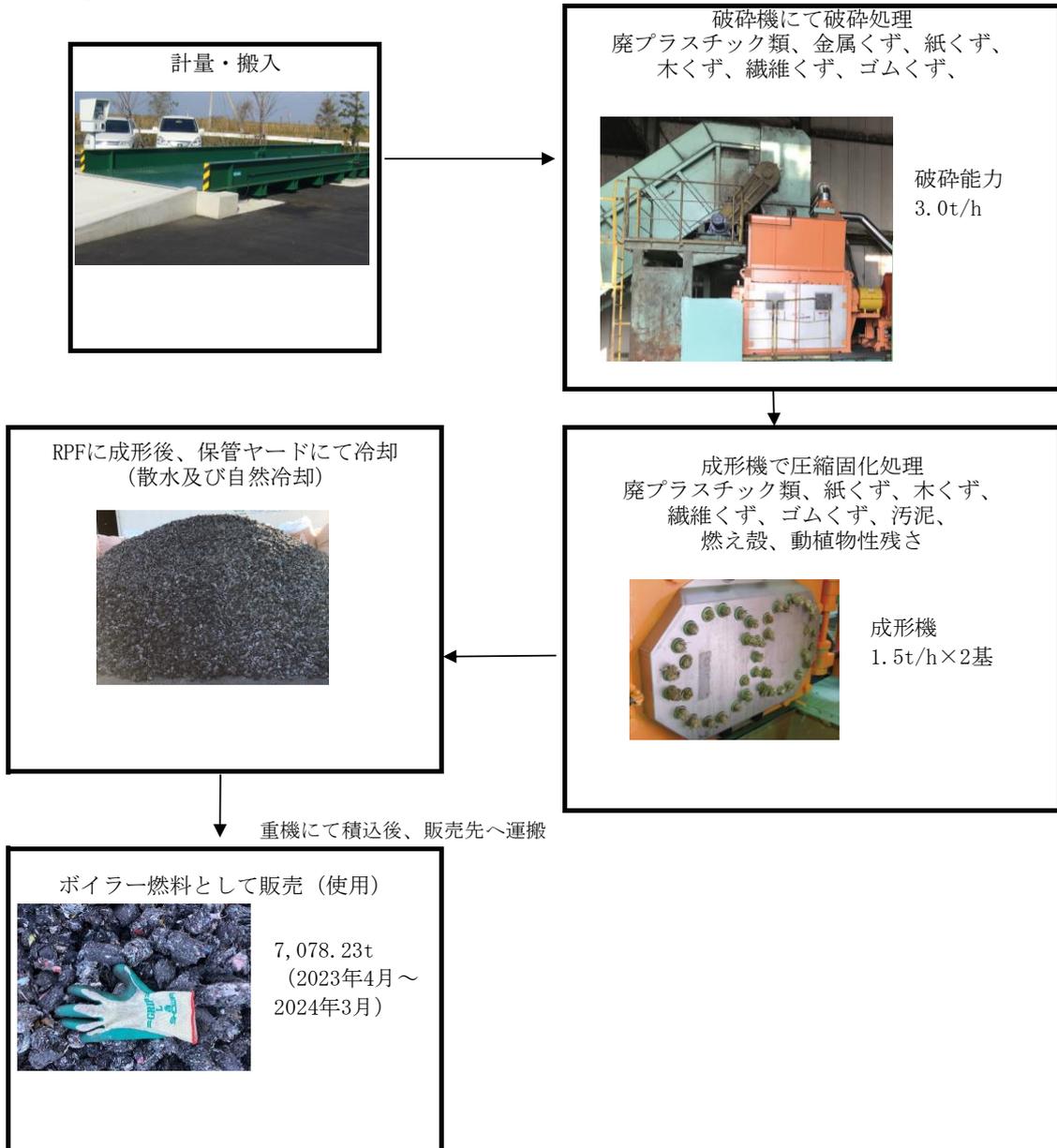
5. 処理工程図及び実績

①処理方法：破碎



(2023年4月～2024年3月)

②処理方法：圧縮固化



6. 産業廃棄物 収集運搬実績

産業廃棄物 総収集運搬量		18,770.745 t			
廃プラスチック類	紙くず	木くず	金属くず	繊維くず	燃えがら
7,657.493 t	5.55 t	93.177t	0.025t	1.91t	6.23t
汚泥	動植物性残渣	がれき類	家畜のふん尿	ガラス・陶磁器くず	
10,660.103t	346.212t	0t	0t	0.045t	

(2023年4月～2024年3月)

一般廃棄物（し尿・浄化槽） 総収集運搬量	3151.0t
----------------------	---------

(2023年4月～2024年3月)

7. 事業の活動規模

活動規模	単位	2023年度	2022年度	2021年度
中間処理量	t	7,220.55	7,689.14	8,660.59
RPF生産量	t	7,078.23	6,983.89	7,345.35
産業廃棄物 収集運搬量	t	18,770.75	18,299.46	18,323.98
一般廃棄物（し尿・浄化槽） 収集運搬量	t	3,151.00	3,226.00	3,127.00
売上高	百万円	362	357	361
従業員	人	21	21	22
敷地面積（本社）	m ²	3230.88		
敷地面積（工場）	m ²	3,945		



8. 環境経営目標及び実績

○実施期間目標及び実績

環境経営目標	単位	2023年4月～2024年3月		評価	関連するSDGs 
		目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	887,387	796,513	○	        
(1)電気使用量	kWh	1,013,663	868,221	○	
製品製造量当たりの電気使用量	kWh/t	137.0	121.6	○	
(2)ガソリン使用量の削減	L	2,769.0	3,712.0	×	
(3)軽油使用量の削減	L	195,646.8	180,453.5	○	
廃棄物運搬量当たりの軽油使用量	L/t	9.91	8.77	○	
製品製造量当たりの軽油使用量	L/t	2.62	2.50	○	
(4)液化石油ガス（LPガス）使用量	kg	41.6	73.50	×	
2. 廃棄物（一般）排出量の削減	t	328	330	×	
3. 水使用量の削減	m ³	5,102.7	4,039.2	○	
4. 再資源化量の向上	t	7,442.00	7,091.40	×	    
(1)製品（RPF）製造量	t	7,400.00	7,078.23	×	
(2)その他（金属等）再資源化量	t	42.00	13.17	×	
5. 事故及び苦情件数の削減	件	5	2	○	

0% 「△」：達成率90～100% 「×」：達成率90%以下

○短中長期目標

環境経営目標	単位	基準年	短期目標	中長期目標			
		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
		2022年4月～2023年3月	2023年4月～2024年3月	2024年4月～2025年3月	2025年4月～2026年3月	2026年4月～2027年3月	
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	893,556	887,387	883,457	879,418	875,279	
(1)電気使用量	kWh	1,016,368	1,013,663	1,016,984	1,020,028	1,022,795	
製品製造量当たりの電気使用量	kWh/t	137.2	137.0	135.6	134.2	132.8	
(2)ガソリン使用量の削減	L	2,797	2,769	2,741	2,713	2,685	
(3)軽油使用量の削減	L	197,623	195,647	193,671	191,694	189,718	
廃棄物運搬量当たりの軽油使用量	L/t	10.01	9.91	9.81	9.71	9.51	
製品製造量当たりの軽油使用量	L/t	2.65	2.62	2.60	2.57	2.54	
(4)液化石油ガス（LPガス）使用量	kg	42.0	41.6	41.6	40.7	40.3	
2. 廃棄物（一般）排出量の削減	t	331	328	324	321	318	
3. 水使用量の削減	m ³	5,154.2	5,102.7	5,051.1	4,999.6	4,948.0	
4. 再資源化量の向上	t	7,386.25	7,442.00	7,543.00	7,644.00	7,745.00	
(1)製品（RPF）製造量	t	7,345.55	7,400.00	7,500.00	7,600.00	7,700.00	
(2)その他（金属等）再資源化量	t	40.70	42.00	43.00	44.00	45.00	
5. 事故及び苦情件数の削減	件	5	5	4	3	2	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.371kg-CO₂/kWh（九州電力 2019年度・調整後）を使用した。

※電気の使用量は4. (1)製品(RPF)総出荷量の増加に合わせ、増加しており、製品出荷量当たりの電気使用量を削減目標としております。

9. 環境経営計画及び取組結果

経営計画	取組結果
①二酸化炭素排出量の削減	
(1)事務所・休憩所のエアコン設定温度を決め、実行する。	◎
(2)運転時のエコドライブの実施。	○
(3)車両の整備。(タイヤ空気圧のチェック、オイルのチェック、グリスアップ等)	◎
②廃棄物排出量の削減	
(1)事務所でコピーの最小限、裏紙の利用による一般廃棄物の削減。	◎
(2)廃棄物の分別。(可燃物、不燃物、ビン、ペットボトル等)	○
(3)作業で使用する手袋やウェス、カップ等を可能な限り再使用する。	◎
③水使用の削減	
(1)車両の洗浄の際は、水の節水に努める。	△
④グリーン製品の購入推進	
(1)環境負荷ができるだけ少ない商品の購入に努めます。	○
⑤産業廃棄物のリサイクル率の向上	
(1)収集先に廃棄物の分別を必要に応じ、指導を行う。	◎
(2)搬入された廃棄物の事前分別の実施。(RPF化 可能なもの、金属、その他等)	◎
⑥社会貢献活動の推進	
(1)会社周辺の清掃の実施。	○
(2)使用済み切手の寄付。	○

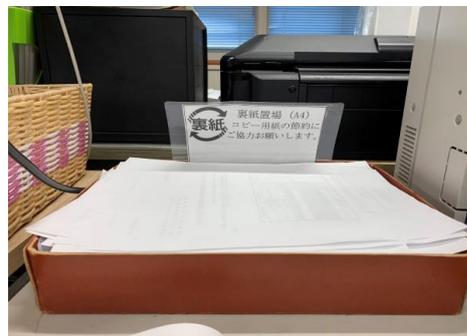
「△」：一部課題有 「×」：未実施

取組内容

① 節電取組み状況



② 裏紙の再利用



③ エコドライブへの取り組み



④ 使用済み切手の寄付



10. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

○環境経営目標（次年度）

環境経営目標	単位	基準年	短期目標		中長期目標		
		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
		2023年4月～ 2024年3月	基準年の1%削減 2024年4月～ 2025年3月	基準年の2%削減 2025年4月～ 2026年3月	基準年の3%削減 2026年4月～ 2027年3月	基準年の4%削減 2027年4月～ 2028年3月	
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	796,513	802,956	799,305	795,563	791,730	
(1)電気使用量	kWh	868,221	898,613	901,557	904,255	906,708	
製品製造量当たりの電気使用量	kWh/t	121.6	121.4	120.2	119.0	117.8	
(2)ガソリン使用量の削減	L	3,712.0	3,674.9	3,637.8	3,600.7	3,563.6	
(3)軽油使用量の削減	L	180,453.5	178,649.0	176,844.5	175,039.9	173,235.4	
廃棄物運搬量当たりの軽油使用量	L/t	8.77	8.68	8.60	8.51	8.42	
製品製造量当たりの軽油使用量	L/t	2.50	2.47	2.45	2.42	2.40	
(4)液化石油ガス（LPガス）使用量	kg	73.50	43.50	43.00	42.50	42.00	
2. 廃棄物（一般）排出量の削減	t	330	327	323	320	317	
3. 水使用量の削減	m ³	4,039.2	3,998.8	3,958.4	3,918.0	3,877.6	
4. 再資源化量の向上	t	7,091.40	7,436.00	7,537.00	7,638.00	7,739.00	
(1)製品（RPF）製造量	t	7,078.23	7,400.00	7,500.00	7,600.00	7,700.00	
(2)その他（金属等）再資源化量	t	13.17	36.00	37.00	38.00	39.00	
5. 事故及び苦情件数の削減	件	2	3	3	2	2	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.371kg-CO₂/kWh（九州電力 2019年度・調整後）を使用した。

※電気の使用量は4. (1) 製品(RPF) 総出荷量の増加に合わせ、増加しており、製品出荷量当たりの電気使用量を削減目標としております。

○環境経営計画（次年度）

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 電気使用量の削減	本社	高野	① エアコンの温度調節とともに、残業を減らし電気の使用時間短縮に努める	堀江	冷房期：7月～9月 暖房期：11月～2月
			② 不要な照明の消灯	堀江	通年
			③ 離席時はパソコンの節電（スリープモード等）	堀江	通年
	工場	森	① エアコンの温度調節とともに、残業を減らし電気の使用時間短縮に努める	塩山	冷房期：7月～9月 暖房期：11月～2月
			② 不要な照明の消灯	塩山	通年
			③ 離席時はパソコンの節電（スリープモード等）	塩山	通年
(2) ガソリン（車）使用量の削減	本社	松井	① エコドライブの推進	古賀	通年
			② 冷房・暖房の最低限使用	古賀	冷房期：7月～9月 暖房期：11月～2月
			③ タイヤの空気圧のチェック	古賀	通年
	工場	森	① エコドライブの推進	森	通年
			② 冷房・暖房の最低限使用	森	冷房期：7月～9月 暖房期：11月～2月
			③ タイヤの空気圧のチェック	森	通年
(3) 軽油（トラック・リフト）使用量の削減	本社	松井	① エコドライブの推進	古賀	通年
			② 冷房・暖房の最低限使用	古賀	冷房期：7月～9月 暖房期：11月～2月
			③ タイヤの空気圧のチェック	古賀	通年
	工場	森	① エコドライブの推進	森	通年
			② 冷房・暖房の最低限使用	古賀	冷房期：7月～9月 暖房期：11月～2月
			③ タイヤの空気圧のチェック	古賀	通年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 一般廃棄物排出量の削減	本社	高野	① 分別収集をし計量し現状を記録する	堀江	通年
			② 食べ残しをしない	堀江	通年
			③ 分別回収を徹底し資源回収率をあげる	堀江	通年
	工場	森	① 分別収集をし計量し現状を記録する	塩山	通年
			② 食べ残しをしない	塩山	通年
			③ 分別回収を徹底し資源回収率をあげる	塩山	通年

3. 水使用量の削減

取組目標	区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 水使用量の削減	本社	高野	① 水使用量の記録をとり使用量の把握をする	古賀	通年
			② 節水標語を表示に個々の意識を高める	古賀	通年
			③ 洗車時、洗濯時の水の流しっぱなし禁止	古賀	通年
	工場	森	① 水使用量の記録をとり使用量の把握をする	森	通年
			② 節水標語を表示に個々の意識を高める	森	通年

4. 再資源化の向上

取組目標	区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 水使用量の削減	本社	高野	① 金属等、再資源化できるものようにBOXの設置	古賀	通年
			② コピー機で裏紙使用の促進	古賀	通年
	工場	森	① 受託した産業廃棄物で再資源化に努める	森	通年
			② 金属等、再資源化できるものようにBOXの設置	森	通年
			③ コピー機で裏紙使用の促進	森	通年

5. 事故及び苦情件数の削減

取組目標	区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 水使用量の削減	本社	高野	① 運転中の安全確認	古賀	通年
			② 廃棄物の飛散防止対策の徹底	古賀	通年
	工場	森	① 運転中の安全確認	森	通年
			② 廃棄物の飛散防止対策の徹底	森	通年

1 1. 環境経営目標及び計画 評価

①二酸化炭素の排出量の削減

産業廃棄物の収集運搬量は昨年度より少し増加しており、軽油の使用量もそれに伴い増えているが、廃棄物運搬量当たりの軽油使用料は目標よりも達成することができた。ガソリンの使用料はエコドライブ等の実施はしているが、営業等で客先へ行くことが増えたり、工事等の現場に乗用車も行くこともあり、使用量は増えている。工場での電気使用量及び軽油の使用料は減少しているが、製品（RPF）の製造量も減少しているため、製品の製造量を増やしていきたい。

②廃棄物の排出量の削減

事務所のごみは、印刷の際、両面印刷や裏紙を使用するなどして削減ができた。また、ごみの分別は各ボックスを準備し、分別に努めている。本年度も機密書類の処分や不燃物等の処分はあったが、排出量は昨年度よりも少し少なくなっている。

③水使用量の削減

水の使用量については、工事等が増え、車両の洗車に水を使用するため、使用料が多くなったが、工場での水の使用料は削減することができ、全体的な使用量は大幅に削減することができた。

④再資源化量の向上

RPFの製造量が昨年度に比べ、少なくなった。工場での受入量も減っており、今後取引先を増やし、受入量及び製品の製造量の増加に努めたい。

12. 環境関連法規一覧

なり、遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、訴訟等も特にありませんでした。

関連法規	要求事項	遵守状況/備考
廃棄物処理法	技術管理士の選定	○ /破砕・リサイクル施設
	一般廃棄物収集運搬業許可	○ /し尿（大刀洗町、小郡市）浄化槽（大刀洗町）の許可
	産業廃棄物収集運搬業許可	○ /九州7県、山口県より許可
	産業廃棄物処理業許可	○ /福岡県より許可
	産業廃棄物保管場所看板	○ /工場内に看板設置
	マニフェスト伝票管理	○ /電子マニフェスト対応可
消防法	指定可燃物の届出	○ /指定可燃物の届：RPF（固形燃料）
道路交通法	法定速度遵守	○ /安全運転講習の実施
家電リサイクル法	家電リサイクル費用の負担	○ /該当がある場合は適正処理
浄化槽法	清掃業許可	○ /大刀洗町より許可
計量法	トラックスケールの校正	○ /1回/2年 定期検査の実施
労働安全衛生法	労働者の危険防止	○ /健康診断の実施
電気事業法	キュービクルの点検	○ /定期点検の実施
企業立地協定	公害防止、環境保全	○ /大牟田市
建設業法	一般建設業の許可	○ /しゅんせつ工事（福岡県）の許可

13. 代表者による全体の評価と見直し・指示

今年度は廃棄物の運搬量は増えたが、工場での受入量とRPFの製造量が減少した。燃料の使用量に関しては増加したものもあるが、運搬量や製造量当たりの使用量は削減することができた。一方で、電気料金や燃料費は高騰しているため、引き続きそれぞれの使用量は削減していきたい。2024年度は、引き続き廃棄物運搬量を増やすとともに、工場での受入量も増やして、RPFの製造量を増やしていきたい。